

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 2月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274202148
法人名	医療法人財団百葉の会
事業所名	グループホーム みずあおい
所在地 (電話番号)	静岡市葵区北1892-8 (054-248-1117 または 054-248-1082)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成 21 年 1 月 16 日

## 【情報提供票より】(平成20年12月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 14.2 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年12月24日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山内科小児科医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡市郊外の山あいにて建てられた「グループホームみずあおい」は、デイサービスセンターが併設された医療法人財団百葉の会が運営するグループホームである。開設して3年余りが経ち、落ち着いた静けさが感じられる中であってデイと一体化されたサービスは利用者にも還元されている。職員育成のための研修も体系的に実施され、所長はじめ職員は日々のサービスの質的向上にむけて努力しており、その状況が随所に見受けられる。また、その人が生きてこられた人生を尊重し、その人らしく、当たり前の暮らしが送られ、楽しい時間を過ごせるようにと、ハート型した葉の「みずあおいの花」をホームの名として取り入れ、お互いが家族のように常に寄り添ったケアを行っていかうとしているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題はほとんどが改善されている。しかし、地域町内会との接点において苦慮しており、地域密着型サービスを推進していく過程において、積極的なアプローチが望まれる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価で見出された課題について実行出来ることは改善の跡がみえるものの、評価を活かした具体的改善策はまだ十分とは言えない。また、自己評価の取り組みにおいても職員から意見を求め、これを基にまとめ上げたもので終わっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーからの質問、意見、要望等を受けており、双方向的な会議となっている。また、推進会議で取り上げられた内容は、法人グループ内にも情報を提供するなど、サービス向上に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等が訪問された場合は、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようにしており、運営推進会議のほか家族会(年1回開催)においても意見等を運営に反映させるようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設のデイサービスの休日を利用して、ホーム内での食事を一般の人達に体験していただく「昼食無料サービス」を開催したり、また、3周年記念の行事にも近隣の住民に参加を呼びかけるなど、地域との付き合いを模索しているが、町内会への加入には未だ壁があり、日々の努力を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループ本体の理念を受け、みずあおい独自に「いごこちよい、ぬくもりのあふれる光の中で、楽しい時間をいつまでも」を理念として掲げ、利用者の生活を第一に考慮したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時には、利用者の状態やケアサービスについて申し合わせており、日常生活の中においても言葉掛けや態度等において、理念に沿った取り組みは見られるものの、アンケート調査では職員全員に浸透するまでには至っていない結果が見受けられる。	○	日々のサービスの提供においては良好な面が見受けられるので、理念を職員全員が共有できるように、より具体的な行動を伴うものにするには、どうすべきかを管理者、職員全員で話し合いの機会を設けることが望まれる。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のデイサービスの休日を利用して、ホーム内での食事を一般の人達に体験していただく「昼食無料サービス」を開催したり、また、3周年記念の行事にも近隣の住民に参加を呼びかけるなど、地域との付き合いを模索しているが、町内会への加入には未だ壁があり日々の努力を期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見出された課題について実行出来ることは改善の跡がみえるものの、評価を活かした具体的改善策はまだ十分とは言えない。また、自己評価の取り組みにおいても職員から意見を求め、これを基にまとめ上げたもので終わっている。	○	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するためには、職員との話し合いが重要であることを認識し、評価の一連の過程を通じてサービスの質の確保・向上につなげていくための改善計画の策定が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーからの質問、意見、要望等を受けており、双方向的な会議となっている。また、会議で取り上げられた内容は、法人グループ内にも情報を提供するなど、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の届書等は郵送に頼っていたが、提出の際や用事のある時に市の担当部署に出向くなど連携を深める取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等に対し、毎月定期的に利用者個々の近況と金銭報告をすると共に買い物のレシートを郵送している。また、家族等の面会時においても、日々の暮らしぶりや健康状態などの近況等を話して意思疎通を図るよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問された場合は、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようにしており、運営推進会議のほか家族会(年1回開催)においても意見等を運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はここ1年間はなく、法人グループ内の異動にとどまっている。異動の際は引継ぎ期間を十分とり、利用者との関係が親密になるよう努力するなど、利用者へのダメージを少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成やケアの質の向上を目的とした法人グループ内での各種研修が行われている。また、リーダークラスを育てるための研修も行われているなど、人材育成には力が注がれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内における管理者の交流のほか、近隣の他の同業者との交流も行われるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族によるホームの見学や利用者本人の体験入所により、ホームの日常生活の雰囲気を見てもらう中で、適性を見極めて家族とよく相談しながら入居を決めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験に照らした関係づくりに配慮し、お互いが家族の一員として受け入れ、利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情等から利用者の意思や思いの把握に努めている。入所して間もない利用者がホームに慣れずにいたが職員の日々の話しかけにより、したいことやして欲しい事など少しずつ話してくれるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りや担当者会議で職員の気付きを話し合い介護計画の作成に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化を見ながら実情に即した介護計画の見直しを行っているが、なかなか会えない家族へは、郵送をしてして理解を求めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスと連携し、機能訓練やレクリエーションに参加している。外出や外泊、面会家族に希望があれば食事を提供するなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用者の入所前のかかりつけ医へ家族が付き添いで受診している。体調に変化があった時は看護職員や主治医に相談し、必要な治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期における事業所の方針を説明し、また、マニュアルも作成されているものの、かかりつけ医との話し合いがもたれていない。	○	看護職員を中心にかかりつけ医との話し合いが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応について繰り返し確認し職員に徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で食事や体操、掃除や散歩、また、職員が見守る中での飲酒や喫煙を楽しむなど、一人ひとりの状態や思いや希望に合わせた生活支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と相談しながら決めたり、食事の支度や片付け等と一緒に準備するように配慮している。誕生日には利用者の希望で回転寿司などで、外食を楽しめるような支援もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、朝から入浴できるように準備している。利用者の希望や体調に留意しながら入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否をする利用者には、一人の職員だけでなく他の職員からも声掛けしてもらい、気持ちよく入浴できるように工夫している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かして食事の支度、後片づけ、洗濯、掃除、ごみ出し、新聞折などそれぞれの能力に合わせた仕事を当番制で支援している。また、得意の習字で書いた理念の掲示や各居室の名札、手芸好きな利用者が作った壁掛けなど利用者が楽しみながら活動できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩、天候のよい時はおやつを持って公園に出かけたり、花見やお祭り、ドライブなど歩ける時に少しでも多く外出させてあげたいとの職員の思いがあり、利用者の体調や気分を留意しながら外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に入るとすぐ事務所があり、人の出入りが分かるので職員の見守りが出来る様になっている。また、センサーの設置でチャイムが鳴るので鍵を掛けず、安全な暮らしができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回、定期的に避難訓練を利用者と共に行っている。また、地域住民から協力が得られるよう運営推進会議を通じて呼びかけをしているが、職員・家族等に対して避難場所などについての周知が十分にされていない。	○	地域住民の協力を得られるような働きかけをすると共に、消防署の協力を得て避難経路や避難経路の確認をするなどの取り組みが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立のチェックをして栄養バランスなど専門的な観点から確認している。また、一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量を把握し、おやつやゼリーなどで補う配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間で利用者は食卓を囲み、ソファーや畳でくつろいでいる。壁には利用者の趣味で作った作品や外出した時の写真、ちぎり絵、毛筆で書かれた理念が貼られ、温かみを感じさせる居心地の良い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた馴染みの家具や日用品が家族の協力を得て持ち込まれ、居心地良く生活できるよう工夫されている。壁には家族の写真や趣味の作品を飾り、その傍には愛用のミシンや仏壇が置いてあり、その人らしい居室作りをしている。		